

ジャパンオープンチアリーディング選手権 2015
兼日本代表チーム選考会
チア部門一般ルール

I. 大会スケジュール

2015年10月25日(日)

II 部門(チア16部門)

A) チームチア部門 (10部門)

1. ジュニアチーム Level 4 以下部門
2. ジュニアチーム Level 2 部門
3. ジュニアチーム Level 1 部門
4. シニアチーム Level 4 以下部門
5. オールガール・エリート部門 (Level 5 に相当)
6. コエド・エリート部門 (Level 5 に相当)
7. オールボーイ・エリート部門 (Level 5 に相当)
8. オールガール・プレミア部門 (Level 6 に相当)
9. コエド・プレミア部門 (Level 6 に相当)
10. オールボーイ・プレミア部門 (Level 6 に相当)

B) スタンツ部門 (4部門)

1. コエドパートナースタンツ部門
2. コエドグループスタンツ部門
3. オールガールグループスタンツ部門
4. オールボーイグループスタンツ部門
5. ジュニアグループスタンツ部門 (Level 4 以下)

C) エキシビション部門 (1部門)

III 演技時間

A. チームチア部門

1. チアパート: 演技の最初または中間に実施することチアクリテリア (30秒以上 60秒以内)
2. 音楽パート: 2分30秒

B. スタンツ部門: 1分

C. エキシビション部門 チームチア部門同様

IV. チアパート

チアリーディングと他のスポーツとの差異を明確にする意味で、演技の始めまたは中間に行うチアパートはこの種目の世界的な独自性を持つもので、音楽無で行うものである
チアでは母国語を用いる事により、国民性を活かしたスタイルを持つ

チアパートは 10 点満点（100 点満点中）

観客をチーム応援に導く能力、サインボード・ポン・スタンツ・ピラミッド・タンブリングが観客をリードするために活用されているか、が審査されるパートである

母国語使用が推奨される

V. チームサイズ、チーム毎の人数

1. チームチア部門 8～24 名
2. コエドパートナースタンツ部門 男性 1 名、女性 1 名、スポッター 1 名（安全確保目的のみ）
3. コエドグループスタンツ部門 男女混成 5 名まで
4. オールガールグループスタンツ部門 女性 5 名まで
5. オールボーイグループスタンツ部門 男性 5 名まで
6. ジュニアグループスタンツ部門 男女関係なく 5 名まで
7. エキシビション部門 5 名以上

VI. 選手の年齢（2015 年 12 月 31 日時点での年齢）

1. ジュニアチーム部門 中学生以下
2. シニアチーム部門 高校生以下
3. エリート/レベル 5 部門 14 歳以上
4. プレミア/レベル 6 部門 15 歳以上
5. スタンツ部門 15 歳以上.
6. エキシビション部門 年齢制限なし

VII. 演技フロア

スプリングなしの通常のマット（9 枚、12.8m×16.5m）

VIII. クロスオーバー（選手の重複参加）

チームチア部門とスタンツ部門の重複参加のみ可

IX.チアジャパンアンチドーピング規約：ガイドラインと手続き

チアジャパンはアンチドーピングを取り入れ、チアジャパンと WADA（世界アンチ・ドーピング機関）は我々の選手の安全と公正な競技のために、その規約に則った活動をしている

X. 違法賭博と厳正なる結果確定へのチアジャパン規則と規約について

チアジャパンは不正賭博と厳正なる結果確定について選手のフェアプレイと競技の品性を保つために規則と規約に則った運営を行う

VI.

ジャパンオープンチアリーディング選手権 2015
兼日本代表チーム選考会
チア部門 ルールと規則

I. 一般ルール

1. 全てのチームは有資格の監督・アドバイザー・コーチの監督を受けていること
2. 全ての監督・アドバイザー・コーチは不急の事態に備えておくこと

II. 大会

1. ジャパンオープンチアリーディング選手権 2015 兼日本代表チーム選考会は 2015 年 10 月 24～25 日に行われる。
2. 大会は代々木第二体育館にて行うことを予定する。
3. 大会の運営者側は、大会の安全に遂行するために天候、施設の問題、テレビ放映に関する必要性、また他の理由により、大会の時間や場所を変更する権利を有する。

III. 運営上の質問について

A. ルールと手続き

ルールや手続きに関する質問はチームの監督またはコーチからのみ大会運営側に問い合わせること。大会での演技に先立って済ませること。

B. 演技

演技に関する質問は演技終了後、または大会終了後までに速やかに大会運営側に行うこと。

IV. スポーツマンシップ

全ての参加者は、イベントを通してスポーツマンシップにのっとり行動する事。各チームの監督・指導者・コーチは、各選手、コーチ、父兄およびその他の関係者がしかるべく行動するよう監督する。スポーツマンシップに著しく反する行為は参加資格剥奪の対象となる。

V. 演技の中断

A. 不測の事態

1. 大会施設、設備の不備、その他避けがたい要因で演技が中断された場合は、大会役員の判断で演技を止めることができる。
2. 演技は最初からやり直しができるが、ジャッジは中断した箇所から行う。中断の程度や影響は大会役員が判断する。
3. もしチームが再演技をしても完全な演技ができなかったとすれば、より低い点数しか獲得できないことになる。

B. チーム側の不備

1. チームの不備で演技が中断した場合は、チームは演技を続けるか棄権しなくてはならない。
2. チームがもう一度演技できるかどうかは大会役員が判断する。役員が再演技を選択した場合は演技を最初から行えるが、ジャッジは中断したところから行う。
3. チームが再演技をしても完全な演技ができなかったとすれば、より低い点数しか獲得できないこととなる。

C. 怪我

1. 怪我による演技の中断を求めることができるのは a)大会役員 b)チーム関係者・コーチ c) 怪我をした本人

2. チームが再度演技できるかどうかは大会役員が判断する。再演技が許可された場合でも、スケジュールのどこで演技するかを決めるのは大会役員である。演技は最初から行えるが、ジャッジは中断したところから行う。
3. チームが再演技をしても完全な演技ができない場合、より低い点数を獲得することとなる。
4. 怪我をした選手は以下のものがなくては演技に戻ることはできない。
 - a. 第1にチームの医療関係者、第2に保護者、そしてチームコーチや関係者からの承諾
 - b. もしもチームの医療関係者がいない場合は保護者または法定後見人からの承諾
 - c. 脳震盪の疑いがある場合には、頭部外傷に関する研修を受けた医師（M.D.かD.O.）の許可なしに演技を再開することはできない。親、または法定後見人からの権利放棄があつたとしても、24時間は演技の再開はできない。 ※M.D. (Medicine Doctor) D.O. (Doctor of Osteopathic Medicine)
 - d. 頭部外傷に関するルールその他、開催地に於ける特別な法律についても熟知しておくことを推奨する。

VI. ルールの解釈

ルールや規則の判断は大会に関係することであればルール委員会から発表される。ルール委員会は大会の精神や目標に沿った判断を決定していく。ルール委員会は大会役員、ヘッドジャッジ、大会関係者で構成される。

VII. 資格はく奪

大会が設ける「ルールと規則」が守れないチームは賞や順位がはく奪されることもある。また次年の参加資格も失うこともある。

VIII. スポッター

ジャパンオープンに参加する選手への安全を配慮して、本番フロアではスポッターが提供される。これはあくまで安全な競技環境を整える目的であるので、チームの力量に見合った技術のみを行うこと。

IX. 共通安全規定

1. 全ての選手は有資格の監督、コーチの監督を受けること。
2. コーチは技の向上に先立ってコーチという任務への熟達が必要である。コーチは選手やチームの技術レベルに適した内容が実践できるようにすること。
3. 全てのチーム運営者、監督、コーチは不急の事態に備えておくこと。
4. 選手もコーチも、十分な監督や安全な演技を行う能力を妨げるようなアルコール、麻薬、筋肉増強剤、処方薬の影響下にある場合は、練習や演技を行ってはならない。
5. 選手はいつでも適正な場所で練習、演技すること。技術的なスキル（スタント、ピラミッド、トス、タンブリング）はコンクリート、濡れている場所、平らでない場所、障害物のある場所では行わないこと
6. 競技の間は柔らかいソールの靴を着用する。社交ダンスシューズ、ブーツ、体操シューズ（または同等品）は禁止。
7. 耳、鼻、舌、へそまたはフェイシャルリング、ブレスレット、ネックレス、ユニフォームにつけるピンは禁止。ジュエリーは外すかテープでとめること。例外：医療用IDタグ、ブレスレット。ユニフォームや皮膚にしっかりとつけている状態のラインストーンは可。
8. (注：スタントにおいて投げる際などの場面で)動作の力を増強させるような設備の使用は禁止。
例外：スプリングフロア
9. 旗、バナー、サインボード、ポンポン、メガフォン、布のみが使用可能な道具。竿や同等のもので支持して使用する道具はスタントやタンブリングでは使用してはならない。道具を投げるときは危険のないようにする。

(例：サインボードをスタンツからマットを横切って投げることは違反にあたることもある)

ユニフォームの一部を体から外して視覚効果に使用した場合は道具とみなされる。

10. 固く曲がらない素材のもの、とがった角のあるものは当てものでカバーすること。
(当てものとは選手と周囲の人を傷つけないようにするためのもの)
11. レベルグリッドにおいて、当該のレベルはそれより下のレベルのスキルを包含する。
12. 望ましいスポッターとは、チームメンバーであり正しいスポッティングテクニックを学んでいること。
13. ひざ、尻、腿、体の前面、背中での着地、ジャンプ、スタンツや逆さ姿勢からのスプリット着地は、着地の衝撃を和らげるため手や足に体重の大部分が乗っていないと不可。
14. 演技の開始時、選手の片足、片手、体の一部（髪以外）が競技フロアに接していること。シュシュノバは可。
補足：ベースの手に足を乗せている場合はベースの手がフロアに接していること。
15. 競技者は演技の間は交代してはならない。
16. 窒息を防ぐため、選手は練習でも大会演技時でもガム、キャンディー、咳止めドロップなどの食べるもの、または食べ物以外でも、口に入れてはいけけない。

X. ユニフォームガイドライン

性的感情を誘発させたり、猥褻じみた下着のように見えるユニフォームや衣類は禁止。

ユニフォーム（個々のパーツを含む）・アンダースコート又はスパッツは選手の体を適切に覆い、衣類上の問題が起きるのを防ぐように十分締め付けていなければならない。

適切な下着を着用しなければならない。

下記の個々のガイドラインに加えて、選手はユニフォーム（ユニフォームの個々のパーツも含む）が適切かどうかの判断材料となる事をわかっていなければならない。

全ての衣類は適切に選手自身と選手の下着を演技中に覆っていないと不可。

※以下のガイドラインはジャパンオープン 2016 終了後より適用

●ユニフォームスコート/ショーツガイドライン

スコートをユニフォームの一部として着用する時は、スコートの下にアンダースコートを履かなければならない。スコートはお尻を全て覆うものでなければならない。

スコートはアンダースコートを完全に覆い、長さはアンダースコートの裾より最低1インチ（2.54 cm）長くなければならない。

スパッツをユニフォームの一部として着用する場合は、スパッツの股下の長さが最低2インチ（5.08 cm）なければならない。

●ユニフォームトップスガイドライン

ジュニア部門で競技する競技者のユニフォームトップスは、腹部を見せてはならない。

ユニフォームトップスは最低どちらかの肩、又は首の周りを布で覆うか、ストラップで固定されていなければならない。（チューブトップは着用不可）

審査員はチームのコリオグラフィー・ユニフォーム・化粧・ボウ（リボン）などがこのガイドラインで説明されている「適切さ」の基準に満たないと判断した場合、警告・減点の権利を有する。